



合併前の上越市／高田公園の夜桜



頸城区／坂口記念館



安塚区／キュービットパレイ



吉川区／スカイスーツ



蒲川原区／虫川の大杉



中郷区／妙高サンシャインランド



大島区／雪ほたるロード



板倉区／光ヶ原高原



牧区／棚田



清里区／坊ヶ池



柿崎区／霊峰 米山



三和区／谷内池



大潟区／綿の浜海水浴場



名立区／うみてらす名立

新しい「上越市民の歌」と ベートーヴェン 「第九」を歌う集い



平成18年**12月3日**(日)

上越文化会館大ホール

- 開 場 13:30
- 新しい「上越市民の歌」表彰式・発表 14:00～14:30
- 第九発表会 15:00～16:30

主 催 /新しい上越市民の歌と
ベートーヴェン第九を歌う集い実行委員会

共 催 /上越市

後 援 /上越市教育委員会・上越商工会議所・久比岐野合唱連盟

新潟日報社・上越タイムス社・上越よみうり・

NHK新潟放送局・BSN新潟放送局・NST新潟総合テレビ・

TeNYテレビ新潟・UX新潟テレビ21・

上越ケーブルビジョン・FM-Jエフエム上越・ジャックランド社



ごあいさつ

新しい「上越市民の歌」と
ベートーヴェン『第九』を歌う集い実行委員会・委員長

渡部 みち子

「新しい『上越市民の歌』とベートーヴェン『第九』を歌う集い」の開催に当たり、一言ごあいさつ申し上げます。

30年ぶりの誕生となった、新しい「上越市民の歌」を合唱団として本日皆様にお披露目できることを大変嬉しく光栄に思います。歌いやすく温もりある美しい曲は、上越一円に広がり、永く歌い継がれていくことと思います。

『第九』歓喜の歌は、地域で多彩にご活躍の方々と手作りの実行委員会発足へとその輪が広がっていきました。歌い手募集には上越市民に加え、遠くは東京・新潟・長岡など230名の皆様からご応募いただき感謝の気持ちでいっぱいです。中学生から90歳近くの方までと世代を超えての合同練習には、子育てや介護の合間をぬってご参加いただき、そのひたむきさには敬服いたしております。

指揮者には上越出身の汐澤安彦氏をお迎えし、オーケストラには上越交響楽団の皆さん、そしてソリストも上越にゆかりのある方々をお迎えしました。合唱練習の行われた3会場では、工藤智昭先生を中心に10数名の先生方よりご指導・ご協力いただきました。誠にありがとうございました。

ある桂冠詩人の言葉に「歓喜の中の大歓喜なり 今この時に巡り合わんがために…」とあります。今日この日を、出演者の皆様と会場の皆様一人ひとりの人生・ドラマが、互いにハーモニーとなって会場いっばいに響き渡り、新しい友情の和の一場面となりえたら感無量です。

開催に至るまで、数多くの関係各位並びに応援いただきました皆様に、心より御礼と感謝を申し上げます。



開催に寄せて

上越市長

木浦 正幸

「新しい『上越市民の歌』とベートーヴェン『第九』を歌う集い」の開催に寄せて、一言ごあいさつを申し上げます。

合併して間もなく2年が経とうとしていますが、新しい「上越市民の歌」の合唱と『第九』の演奏により、市民の皆さんの一体感の醸成を目的としたこの集いを開催できることを大変嬉しく思います。

この集いを開催するに当たり、企画運営されてきた皆さんや合唱団・上越交響楽団の皆さんは、これまでの多くの打ち合わせや練習を通じて、絆を育まれてきたことでしょう。本日は、その成果を存分に発揮していただき、ご来場の皆さんに感動の輪が広がり、それが多くの市民の皆さんに伝われば、この上ない幸せです。

新しい「上越市民の歌」には、上越市の良さが凝縮されていると思います。歌詞をご覧になって、市民の皆さんが想い描く「ふるさと」は、どのような情景でしょうか。メロディーを聴いて湧き上がる「ふるさと」には、どのような思い出がありますか。是非市民の皆さんに、この歌に親しみを持っていただき、共に口ずさんでいただきたいと存じます。

また、新しい「上越市民の歌」を作成するに当たり、上越市の魅力を大らかに生き生きと表現された作詞者の上原みゆきさんを始め、補作詞者の杉みき子先生、作曲していただいた後藤丹先生、そして、上越市に寄せる想いを歌詞に込めてご応募いただいた多くの皆さんに、この場をお借りして感謝申し上げます。

新しい「上越市民の歌」が、ベートーヴェンの『第九』のように、永く、皆さんに引き継がれていくことを祈念し、ごあいさつとさせていただきます。

このふるさとを

作 詞 上原 みゆき
補作詞 杉 みき子
作 曲 後藤 丹

一
山のめぐみ豊かに 水は流れる
海のめぐみ豊かに 風は光る
きこえてくるのは 山の歌
きこえてくるのは 海の歌
ああ きこえてくるのは 希望の歌
ひとりひとりの 歌声が 今
風となり 光となって
明るくつつむ このまちを
美しいふるさとを 抱きしめていこう
どこまでも どこまでも

二
やわらかに雪あかり 心をてらす
元気にまつりばやし 夢もおどる
きこえてくるのは 父の歌
きこえてくるのは 母の歌
ああ きこえてくるのは 船出の歌
ひとりひとりの やさしさが 今
虹となり 未来となって
大きくはぐくむ このまちを
大好きなふるさとを 歩きつづけていこう
いつまでも いつまでも

新しい上越市民の歌に寄せて



作 詞／上原 みゆき(板倉区熊川)

平成17年1月1日、新しい上越市が生まれました。合併前の上越市と旧13町村、いずれも豊かな自然に恵まれています。守り、伝えていくべき文化があり、歴史があります。そして、何よりも、そこに暮らす人々がいます。草や木も、暮らしています。いろいろな動物も、懸命に生きています。そういった、全てのものを含めて、一人ひとりのやさしさが大きくしっかりとつながって、すばらしい上越市となればいいなあ…そんな願いをこめて、詞を書きました。



補作詞／杉 みき子(文学者)

広域にわたる新しい上越市の魅力を、山と海、雪と祭に集約し、未来を志向した原歌詞にとても心ひかれしました。全体にわたって、風と光がきらきらきらめいている印象を、ぜひこのまま生かしたいと思いました。

歌うための歌、ことに公的な歌は、1番と2番の整合性が大切だと思います。原歌詞はこの点もよくできていましたが、いくらか消化の足りない部分もあったので、少しことばを入れかえて、無理なく歌えるようにしました。大らかで生き生きとした原歌詞に恵まれ、それにふさわしい曲がついて、すばらしい市民の歌ができたことを喜びたいと思います。



作 曲／後藤 丹(上越教育大学教授)

作曲に取り掛かるにあたり、まず、詞の応募作品93点のすべてに目を通すことで市民の皆さんの心にある上越市のイメージを感じ取ることから出発しました。最優秀作品に選ばれた上原みゆきさんの詞は調べが高く、固有名詞がひとつも入っていないにもかかわらず、地域の匂いを濃く感じさせるのは見事だと思います。

やや長い曲なので、できるだけ覚えやすいシンプルなメロディーで、有機的に段々と盛り上がっていく構造の曲を考えました。これまで市内のいくつかの校歌などを作曲してきましたが、今回このような大きな仕事に参加できたことは大きな喜びです。

plofile ◆プロフィール(指揮・オーケストラ)



指揮／汐澤 安彦

新潟県立直江津高校卒業、ピアノを中井ソノ氏に師事。東京芸術大学器楽科卒業、同専攻科修了。トロンボーンを山本正人、指揮を金子登の各氏に師事。当初、バストロンボーン奏者として読売日本交響楽団に在団。傍ら、桐朋学園において斎藤秀雄氏により指揮法を学ぶ。

1973年民音指揮コンクール(現・東京国際音楽コンクール)第2位。1975年ドイツ留学。ベルリン音楽大学、カラヤンアカデミーに学ぶ。帰国後、オーケストラ、オペラ、合唱の各界に活躍。

一方、吹奏楽界においては、東京音楽大学シンフォニックウィンドアンサンブル指揮者、東京吹奏楽団常任指揮者として永くその任にある他、東京佼成ウィンドオーケストラ、シエナウィンドオーケストラ等の客演指揮者としてコンサート・録音・放送など幅広く演奏活動を行っている。

1999年日本吹奏楽学会第9回日本吹奏楽アカデミー賞(演奏部門)受賞。東京音楽大学教授。



オーケストラ／上越交響楽団

(客演コンサートマスター 三 溝 健一)

1972年上越交響楽団発足。年2回の定期演奏会や県民文化祭など各地で公演を開催している。特に2000年から国際交流事業の一環として「日韓フレンドシップコンサート」に参加。日韓を代表する作曲家2名による委嘱曲「交響曲2002」の初演を行い高い評価を得る。

現在、交響曲を中心に第九や委嘱作品などで幅広く活動を展開している。

プログラム

■ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン作曲 ■交響曲第9番二短調作品125「合唱つき」

Ludwig Van Beethoven Symphony No.9 d-minor op.125 "Choral"

第一楽章

アレグロ・マ・ノン・トロツポ・ウンポコ・マエストーソ
【速く、ただし控えめに、そしてやや威厳を持って】

●二短調4分の2拍子・ソナタ形式

第三楽章

アダージョ・モルト・エ・カンタービレ
【はなはだゆっくり、かつ歌うように】

●変ロ長調4分の4拍子・変奏曲

第二楽章

モルト・ヴィヴァーチェ
【きわめて速く活発に】

●二短調4分の3拍子・スケルツォ

第四楽章

プレスト・アレグロ・アツサイ 「フィナーレ」
【急速に—はなはだ速く】

●4分の3拍子

plofile ◆プロフィール(ソリスト)



ソプラノ／北住 順子

国立音楽大学卒業。卒業時に岡本賞を受賞。声楽を菅家美保子、前多孝一、釜洞祐子の各氏に師事。リサイタル・コンサート・オペラなどの様々な演奏会の舞台に立ち研鑽を積む。

オペラ公演では、「魔笛」夜の女王、パミーナ、侍女1、「フィガロの結婚」スザンナ、「ドン・ジョヴァンニ」ドンナ・アンナ、「コジ・ファン・トゥッテ」デスビーナ、新潟センチュリー・オペラ「てかがみ」ヒロイン武田亮子などの各役で多数出演。

新潟中央高等学校音楽科非常勤講師。



アルト／相沢 磨由

昭和音楽大学卒業後、日本オペラ振興会オペラ歌手育成部第10期修了。1990年度文化庁国内研修員。1994年からイタリアへ留学し研鑽を積む。

「フィガロの結婚」マルチェリーナ役、「椿姫」フローラ役、「てかがみ」レイチェル役など多数のオペラに出演。コンサートでは「メサイア」「第九」「新潟ニューイヤー・ガラコンサート」等、東京だけでなく地方においても数々のコンサートに出演。

現在、二期会会員。中村健、仁田ちさ、故アリゴ・ポーラ、カルロ・ベルゴンツィ等の諸氏に師事。



テノール／内山 信吾

武蔵野音楽大学大学院卒業。第36回伊声楽コンクール入選。ドイツのブラウンヴァイク歌劇場にソリストとして招かれ、オペラ歌手として経験を積む。

日本と韓国のオペラ団による日韓共同制作公演「蝶々婦人」のピンカートン役、2006年東京オペラプロデュース公演「カルメン」のドン・ホセ役では絶賛された。「第九」「メサイア」「戴冠ミサ」等の宗教曲、交響曲のソリストとしても高い評価を受けている。

現在、東京オペラプロデュース会員。日伊音楽協会会員。



バリトン／箕輪 健

新潟県上越市出身。東京音楽大学声楽科卒。同オペラ研修科修了。声楽を栗林義信、五日市鶴子、黒田清、白石隆生の各氏に師事する。二期会オペラスタジオマスタークラス修了。首都圏を中心に日本フィルハーモニーほか、多数のオーケストラと共演する。パッハ「マタイの受難曲」、ヘンデル「メサイア」、ハイドン「天地創造」等、オラトリオの演奏において的確な表現力に高い評価を受けている。

東京合唱協会会員。クロスロードシンガーズリスト。創価合唱団指揮者及びソリスト。創価大学非常勤講師。洗足学園音楽高校非常勤講師。

総合合唱指導

工藤 智昭(上越教育大学名誉教授)

合唱指導

●岡田 明 ●木村 かおる ●高野 めぐみ ●長谷川 徹

ピアノ

●君島 由紀 ●斎藤 真 ●鈴木 彩子 ●中條 リカ ●松本 麻美 ●米持 奈津子